1.　「平成２７年３月度 キャリアプランセミナー」報告

2015.4.2

修習技術者支援実行委員会　委員補佐
修習技術者(情報工学部門)　松下朋永

2.　研修会概要

日　時　平成 27 年 3 月 14 日（土）
10:00～19:45
主　催　社団法人日本技術士会
修習技術者支援実行委員会
会　場　日本技術士会葺手第二ビル５階

3.　研修会の内容

修習技術者キャリアプランセミナー 司会	10:00～18:00 石附　尚志
開会挨拶 修習技術者支援実行委員会 委員長	10:00～10:05 神下　　栄
セミナーの概要説明	10:05～10:20 石附　尚志
講演１ 「技術士になるために 必要なキャリアとは」 技術士（建設部門）	10:20～10:50 高橋　健一氏
講演２ 先輩技術士の事例紹介 技術士（電気電子部門） 技術士（経営工学部門） 技術士（原子力・放射線部門）	10:50～11:50 山本　恵一氏 赤木　宏匡氏 中田よしみ氏
昼食、自己紹介、役割分担	11:50～12:40
グループ討議 「技術士になるための キャリアプラン」	12:40～16:30
グループ討議の結果の発表、質疑応答	16:30～17:50
講評 修習技術者支援実行委員会 副委員長	17:50～17:55 川村　智
閉会にあたって	17:55～18:00 石附　尚志
情報交流会	18:15～19:45

4.　研修会の参加者

今回の研修会は、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者（修了者を含む）を対象とした修習技術者キャリアプランセミナーであった。修習技術者を中心に 25 名の事前申込みがあり、22 名が参加した。修習への高い関心がうかがえる。

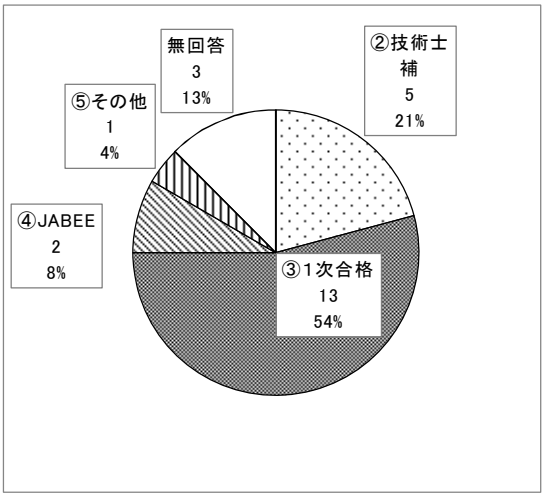

図 1　参加者ステータス

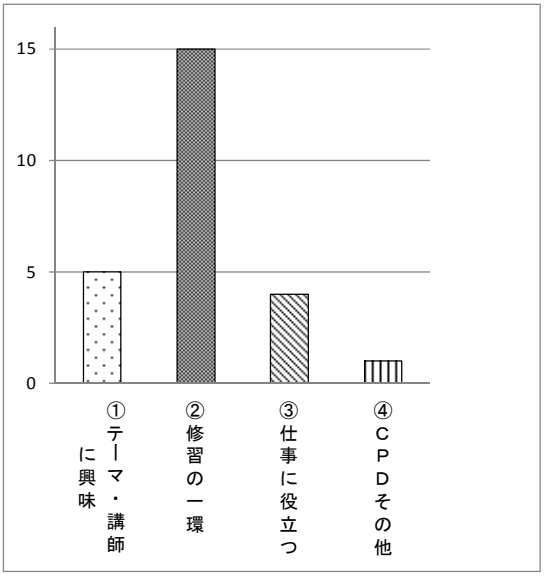

図 2　参加動機（複数回答）

5.　研修会の状況について

今回のセミナーでは、まず修習技術者支援実行委員会の神下栄委員長の開会挨拶の冒頭、委員長の号令のもと、東日本大震災から 4 年が経過したことを踏まえ、出席者全員で黙祷

を奉げた。開会挨拶に続いて、司会者より、本セミナーの目的及び進行に関する説明があった。

続いて、「技術士になるために必要なキャリアとは」と題し、高橋健一氏の講演があった。次に、先輩技術士の事例紹介として、山本恵一氏、赤木宏匡氏、中田よしみ氏から、自身の経験が述べられた。

次に、「技術士になるためのキャリアプラン」についてグループ討議を行い、発表と質疑応答を行った。

写真 1　開会挨拶の状況

◆　**講演１について**

高橋健一氏の講演は、「技術士になるために必要なキャリアとは」と題して行われた。講演では、技術士になるために必要な「キャリア」の捉え方、キャリアプランを考える上での自分自身に対する 5 つの問い、キャリアプランの描き方、自身の経験を有効に活用する視点、グループ討議に向けての問題提起と進める上でのポイントが説明された。

写真 2　高橋健一氏の講演状況

◆　**講演２について**

山本恵一氏の講演は、「技術士取得までの道のり～技術士会活用の勧め～」と題して行われた。山本氏は技術士の取得前から技術士会の講習会等に参加されており、その中の CPD 講座で体験された「気づき」について紹介があった。また、当研修会と対で行われる先端複合技術研究会（先端研）でご自身が発表されたご経験からも、どのような「気づき」が得られたか紹介された。ご自身の経歴や今後の目標なども踏まえ、修習技術者の方へのメッセージを頂いた。

写真 3　山本恵一氏の講演状況

赤木宏匡氏の講演は、「BEFORE／AFTER 技術士」と題して行われた。講演では、ご自身の業務と専門分野である経営工学についての紹介があった。また、PDCA の視点から、実際に描かれていたキャリアプランと、その実行結果およびプランの修正過程、次のステップとしての今後の目標が紹介された。

写真 4　赤木宏匡氏の講演状況

中田よしみ氏の講演は、「技術士試験　体験談」として行われた。講演では、日々向上させていくという視点で、PDCA は「サイクル」ではなく「スパイラル」であるとの指摘があった。また、これまでの業務経歴や、受験と出産育児をいかに両立されたかについても紹介があった。試験勉強を長く継続していくにはモチベーションの維持も重要であり、いかに維持されたかも、具体的な勉強方法とともに紹介して頂いた。

写真 5　中田よしみ氏の講演状況

◆　**グループ討議について**

グループ討議は、ブレーンストーミング形式でキャリアプランを考えた。昼食を含む約 4 時間の時間を使い議論するとともに、わかりやすいプレゼン資料をまとめ、グループごとに、発表 10 分、質疑 10 分を実施した。

写真 6　グループ討議の状況

Ａグループは、修習技術者から技術士になるための要素として、多面的、多業種、多視点が挙げられた。また、技術者倫理は、資格取得後も必要であり、主体的に取組み、責任を持ってやり遂げる力としての業務遂行能力も挙げられた。資質としては、技術士としての要素に加え、試験対策も必要であり、キャリアがまだ不十分なので、技術士会の行事や情報ツールを活用することが挙げられた。

写真 7　Ａグループの発表状況

Ｂグループは、技術士の姿として、全体最適化や本質をとらえた課題解決能力、倫理をはじめとする行動規範、深く広い知識を含む技術力、時間・工程・コストなどのマネジメント能力、くみ取る力を含めた伝える力・説得力、社外や異分野とのネットワークを活かした技術のコンシェルジュという 6 つの要素が挙げて説明された。これらは、向上心を中心にすることにより、各要素に幅を持たせて積み重ねるこができるとされた。

写真 8　Ｂグループの討議状況

Ｃグループは、なるべき技術士像、今足りないもの、そのために何をすべきかに分けて、説明された。なるべき技術士像は、周辺知識を含む専門性や、社会の問題、顧客の問題に対する気づき、問題解決能力、倫理観を持ち

合わせているとのことであった。今足りないものとしては、深い専門知識、広い周辺知識、専門家とのつながりなどが挙げられた。また、気づきや自己表現能力もさらに必要であるとされた。すべきことは、目標意識を持ち、学会など社内外の人たち交流の機会を自ら作ることや、行動原則を守ることが挙げられた。

写真 9　Ｃグループの発表状況

Ｄグループは、アウトプット力やコミュニケーション力は自分で分析ができるが、倫理観は一人では難しく他者の視点での気づきが重要であると指摘された。また、交流の機会や尊敬する先輩技術士との関係、顧客との信頼関係の中で、資格取得が目的ではなく CPD の必要性が挙げられた。また、各自の専門分野は違うが将来の目標は同じとのことで、技術の伝承や、中小企業のサポート、地域の活性化、IEC や APEC エンジニアとしての活動を通して定年後にも社会貢献をしていきたいとのことであった。

写真 10　Ｄグループの発表状況

いずれのグループも、現状分析から将来の展望を踏まえた具体的なキャリアプランを描くことができた。また、図を用いるなど、わかりやすい発表資料とするための工夫が見られた。

川村副委員長の講評では、各グループの発表の中で、技術士として意識すると良い点などが確認された。

写真 11　講評の状況

6.　情報交流会の状況について

情報交流会には、今回も大勢の方が参加した。特に今回は、はじめて参加された方が多かった。事例紹介をされた 3 名の講師も参加され、ご講演や、グループ討議の内容などを踏まえた、活発な意見交換が行われた。また、今後の修習活動に向けても、積極的な情報交換が行われた。

以　上